

## ジュネーブ軍縮会議ハイレベル・セグメント 深澤外務大臣政務官ステートメント

議長、  
御列席の皆様、

はじめに、軍縮会議の議長、事務局長並びに事務局の皆様、平素からの御尽力に感謝申し上げますとともに、我が国からの支持を改めて表明いたします。

議長、

国際社会は現在、歴史の転換期にあり、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序は、重大な挑戦にさらされています。ロシアによるウクライナ侵略は、明白な国際法違反であり、国際秩序の根幹を揺るがす暴挙です。ロシアによる核の威嚇は断じて受け入れることはできません。ましてや、その使用はあってはなりません。加えて、ロシアによる北朝鮮製弾道ミサイルの調達に関連安保理決議に対する直接的な違反であり、そのウクライナに対する使用は断じて容認できません。その見返りとして、核・ミサイル関連技術がロシアから北朝鮮に移転される可能性を深刻に懸念しています。そうなれば、我々全てにとって重要な価値を持つ不拡散体制を著しく損なうこととなります。全ての国連加盟国に対して、北朝鮮とのあらゆる武器及び関連物資の取引の禁止並びに核・ミサイル関連技術のあらゆる移転の禁止を含む全ての関連安保理決議の完全な遵守を求めます。

インド太平洋地域では、パワーバランスの歴史的な変化が生じており、日本を取り巻く安全保障環境は、急速にその厳しさを増しています。我が国周辺では、急速かつ不透明な形で核・ミサイル戦力を含む軍備増強や、力による一方的な現状変更の試みなどの動きが一層顕著になっています。

北朝鮮による度重なる弾道ミサイルの発射や核兵器の使用に関する緊張を高めるようなレトリックを含む、核・ミサイル活動の進展を引き続き深刻に懸念しています。こうした活動は、国際社会全体にとっての深刻な課題です。我が国は、北朝鮮の全ての大量破壊兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルの完全な、検証可能な、かつ不可逆的な廃棄(CVID)の達成に向けた強いコミットメントを改めて強調し、北朝鮮に対し、全ての国連安保理関連決議の遵守並びにNPT及びIAEA保障措置の完全な遵守への早期復帰を求めます。

議長、

このような状況を踏まえ、一刻も早く、軍縮会議が唯一の多国間軍縮交渉機関としての役割を果たす必要があります。グテーレス国連事務総長が提唱する「新・平和への課題」では、既存の軍縮機関の停滞が指摘され、その再活性化の必要性が掲げられています。現状の停滞がこれ以上続くようでは、核軍縮を巡る世界の分断は深まるばかりです。

日本は、唯一の戦争被爆国として、NPTを国際的な核軍縮・不拡散体制の礎石とし、「核兵器のない世界」に向けた国際的な取組を主導することに力強くコミットしています。日本は、岸田総理大臣が提唱した「ヒロシマ・アクション・プラン」に沿って現実的かつ実践的な取組を前進させることに全力を尽くす所存です。

ここ軍縮会議において、日本は核兵器用核分裂性物質生産禁止条約（FMCT）の即時交渉開始の重要性を改めて強調します。世界の核兵器数の減少傾向が反転する可能性を回避する上で、これは喫緊の課題です。昨年9月に日本がオーストラリア及びフィリピンと共催したFMCTに関するハイレベル行事でも強調されたように、過去30年以上の実質的な議論を土台に、叡智を結集して、一刻も早くこの膠着状況を打破しなければなりません。この観点から、日本はFMCT交渉開始に向けた政治的機運を高めるための取組を継続いたします。また、このような目的のため、条約が発効するまでの間、日本は全ての関係国に対して核兵器用核分裂性物質の生産モラトリアムの宣言又は維持を呼びかけます。

日本は軍縮会議の成果を効果的に実現するため、包括的核実験禁止条約（CTBT）の早期発効にも引き続き強くコミットしています。日本は全ての国、特に残りの発効要件国に対し、その署名・批准を求めます。また、CTBT発効までの間、日本は全ての関係国に対し、爆発を伴う核実験のモラトリアムの宣言又はその維持を求めます。

さらに、あらゆる核軍縮措置の基礎を成す透明性の重要性を強調します。緊張が高まり各国の立場が異なる現下の情勢において、核兵器国による核戦力に関するものを含む透明性の向上は、信頼醸成や核軍縮の更なる進展に資する環境を培うことに貢献し得るものです。

議長、

軍縮措置に加えて、軍備管理枠組みへの責任ある関与は国際社会の利益です。この文脈で、ロシアが新STARTの完全な履行に戻ることを要請します。また、我が国は、米国及びロシアのみならず、より広範な国家、より広範な兵器システムを含む幅広い軍備管理枠組みに向けた対話が行われることを強く期待します。

議長、

昨今、多様なイニシアティブやフォーラムにおいて、AIを含む新興技術に関する新たな議論が開始されています。我々はこの分野における理解を深め、責任ある行動を推進する更なる議論を歓迎します。さらに、日本は特定通常兵器使用禁止制限条約(CCW)の枠組みにおける自律型致死兵器システム(LAWS)に関する合意形成の加速に向けたコミットメントを改めて表明いたします。

宇宙に関しては、日本は特に「責任ある行動に関する規範、規則及び原則を通じた宇宙における脅威の低減」に関するオープンエンド作業部会における、国際社会による実質的で包摂的な議論を高く評価します。我々は、宇宙空間における軍備競争の防止という目標に向けた更なる取組において、建設的に貢献することを楽しみにしております。

議長、

現下の厳しい安全保障環境に鑑み、今ほど軍縮会議がこれまでの議論を踏まえ、長期に及ぶ停滞を打破することが求められている時はありません。また、軍縮会議には全ての核兵器国及び核保有国を含む鍵となる関係国が参加していますが、将来の成果の普遍性を確保する上で、包摂的な参加は鍵です。包摂的に関しては、日本は軍縮分野において女性・平和・安全保障(WPS)アジェンダを推進していきます。日本は、軍縮会議が唯一の多国間軍縮交渉機関であるとのマンデートを全うするため、一層協力していく所存です。

ご静聴ありがとうございました。

(了)